

令和5年8月30日

一般社団法人日本建設業連合会 様

建築足場作業中における高圧感電・墜落災害事例周知と 感電防止 PR について

東京電力パワーグリッド株式会社

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社事業に対し格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

過日、建設工事用防護管の取付申し込みがない建築現場において、足場作業中に建築作業員が誤って高圧本線に触れて感電し、地上に墜落する事例が発生いたしました。一命は取り留めたものの、建築作業員が重傷を負う災害となっております。

近年、同様の災害が依然として発生していることから、改めて感電災害の防止のお願いをするとともに、関係者の皆様へ本事例の周知による注意喚起ならびに、感電防止パンフレットの共有をお願い申し上げます。

パンフレットには、クレーン・圧送車等を使用される場合は弊社へご連絡いただくよう記載してございますが、近年の事例ですとクレーン・圧送車等を使用していない状況でも感電事例が発生しております。

同種災害を発生させないために、再発防止に向けた取り組みにご協力をお願いいたします。

1. 災害発生概要

- ・発生日時：2023年8月1日（火）
- ・被災者：建築作業員 19歳 男性
- ・傷害状況：脊髄圧迫骨折、両足骨折、左肘火傷
- ・発生状況：建築足場にシートを取付している際、高圧本線に接触し感電、地上9m程度から墜落
- ・その他：建設工事用防護管取付なし（申込なし）

2. 添付資料

- 【添付資料1】災害発生状況
- 【添付資料2】感電防止 PR パンフレット
- 【添付資料3】建設工事用防護管窓口

以上

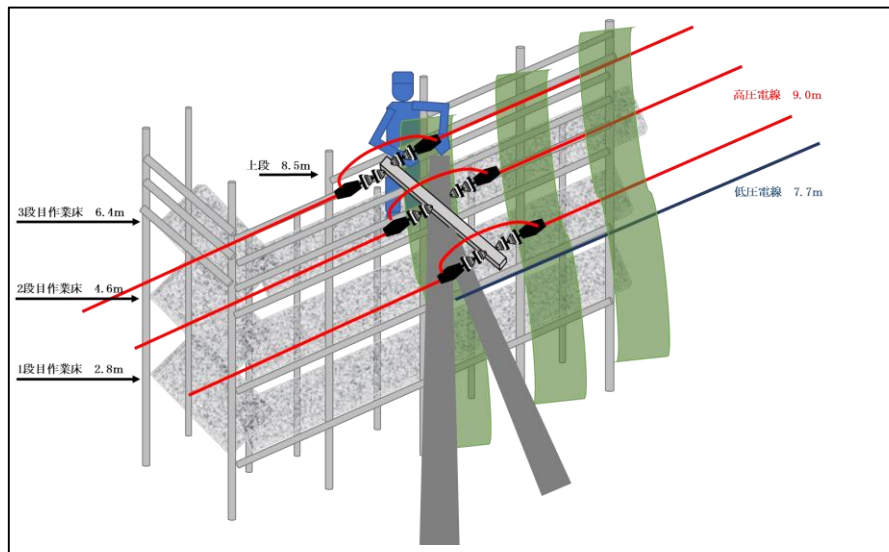
建築足場組立中における公衆感電負傷事故

■ 発生日時：2023年8月1日（火） 12:00頃

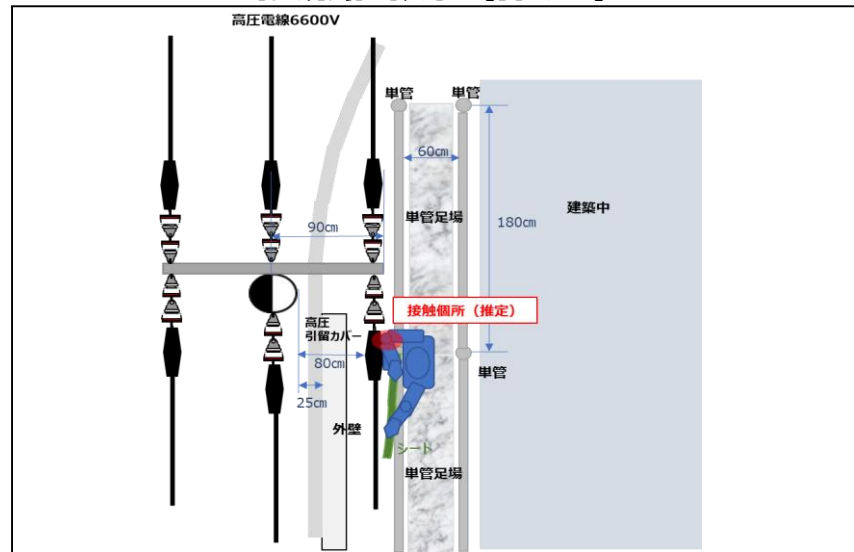
■ 発生概要

建築足場組立工において、建築足場にシート取付の際、**高圧線に接触し感電、墜落**

現場状況



接触箇所（推定）



● 被災者情報

建築作業員
(経験年数 1年)

● 被災者の当日服装

- ・ヘルメット
- ・作業着（長袖・長ズボン）
- ・安全靴
- ・**ハーネス未着用**
 - ※墜落により骨折多数
 - ※感電による火傷あり

● 設備状態

- ・**単管足場と高圧線接触！！**
- ・**単管足場で電線を押している状態です。**

感電災害を防ぐために

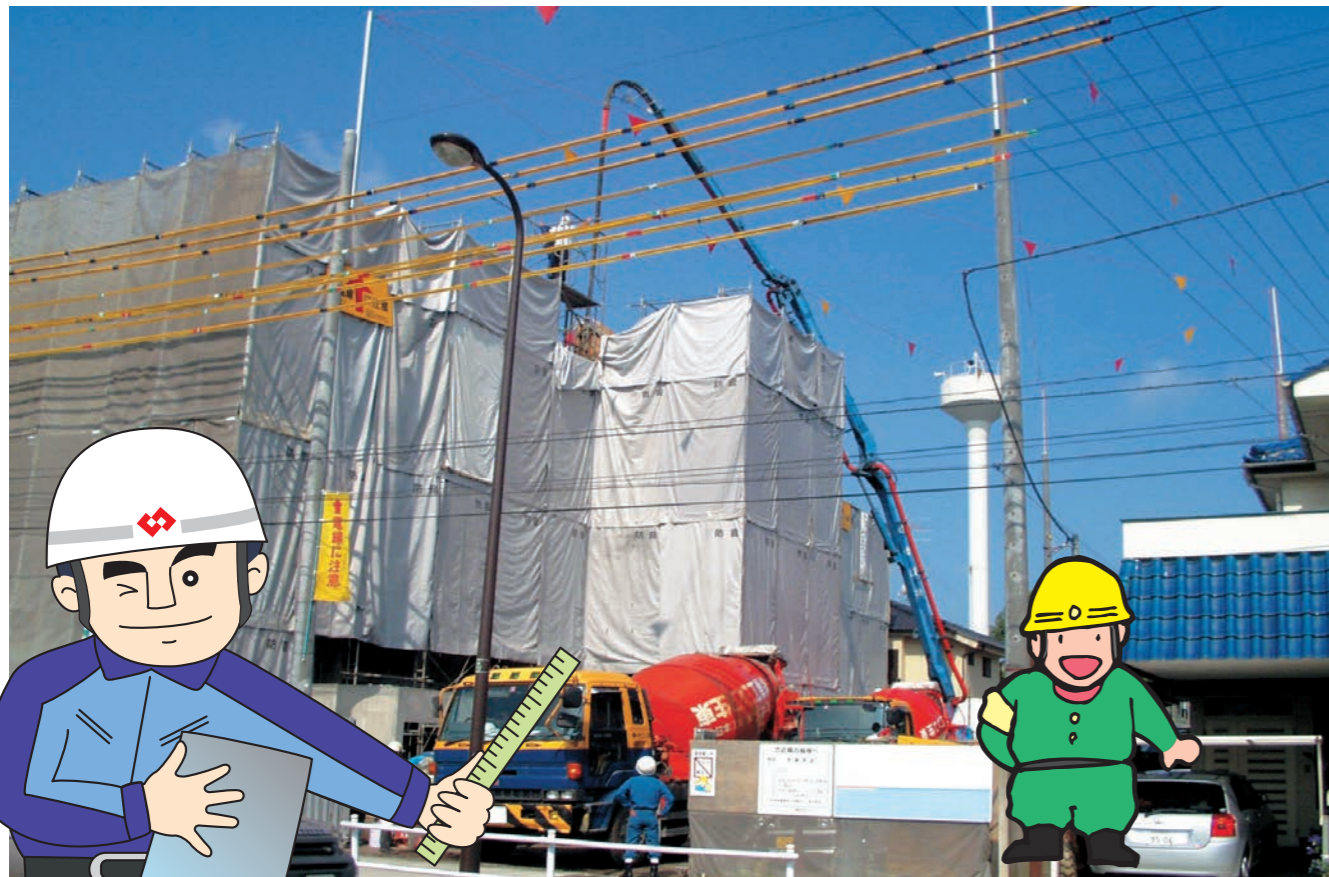
移動式クレーン・コンクリート圧送車等をご使用される皆さまへ



東京電力パワーグリッド

お近くの東京電力パワーグリッドへ

電線の付近で移動式クレーン、圧送車等を使用される
ときは、必ずお近くの東京電力パワーグリッドへ連絡を
お願いします。
《その1本の電話が、事故・災害を防ぎます》



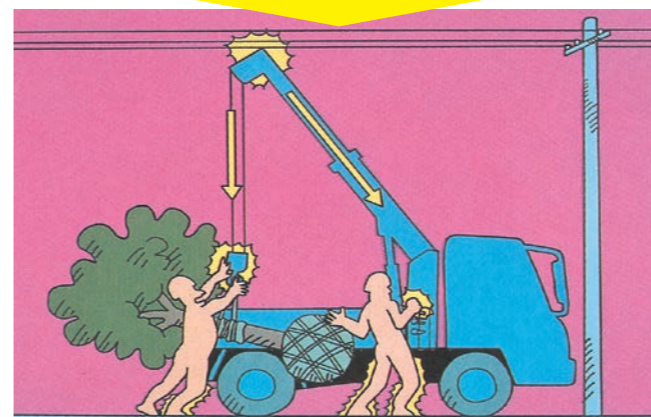
- ◆電線の近くで作業をされる場合には感電をさけるために
 - 電力会社と作業計画の事前打ち合わせを行うこと
 - 関係作業者に対し、感電の危険性と作業標準を周知徹底させること
 - 電線に対して、安全な離隔距離を保つこと
 - 監視責任者を配置すること
 - 危険を防止するための囲いを設けること
 - 当該電線路に絶縁用防護管を装着すること
- などが **労働安全衛生規則・行政指導通達** で皆さまに義務づけられております。
- ◆そこで東京電力パワーグリッドでは移動式クレーン、圧送車等を使用して作業される皆様方に
 - クレーン、圧送車等と電線の間でどのような危険が潜んでいるのか
 - 具体的にどのように感電災害を防ぐか
 について作業箇所へ伺い、お打ち合わせを行い、感電災害の防止に協力させていただきます。
- ※当社からのお願いに、ご協力いただけない場合には、所轄の労働基準監督署に連絡させていただくことがあります。

あっ危ない!!



電線(配電線)に接触すると

車体やワイヤーなどを伝って電気が流れ、感電してしまいます



電撃



火傷



心臓麻痺

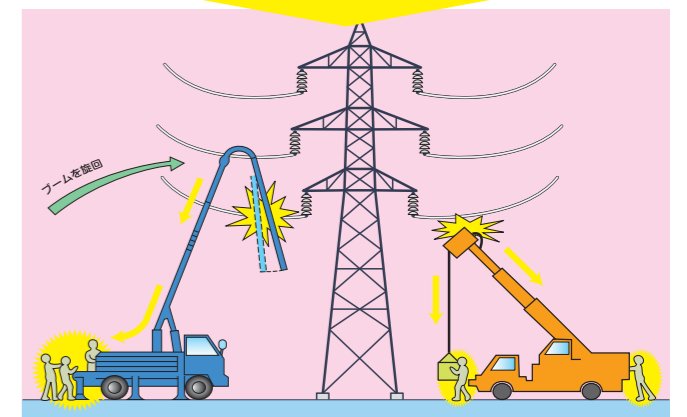


感電時の着用衣服

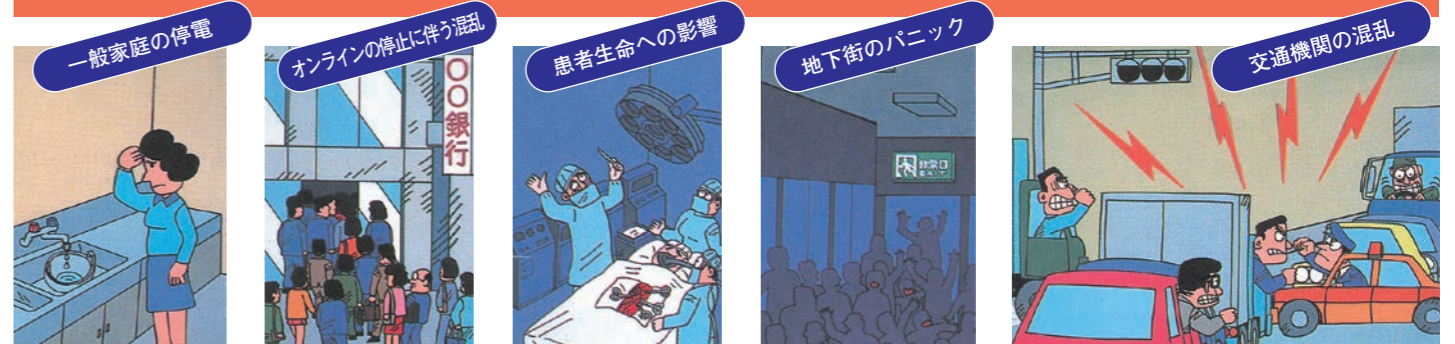


電線(送電線)に接近すると

電線に近づいただけで放電がおり電気が流れ、感電してしまいます



作業者の感電災害・停電事故を引き起こします



一般家庭の停電

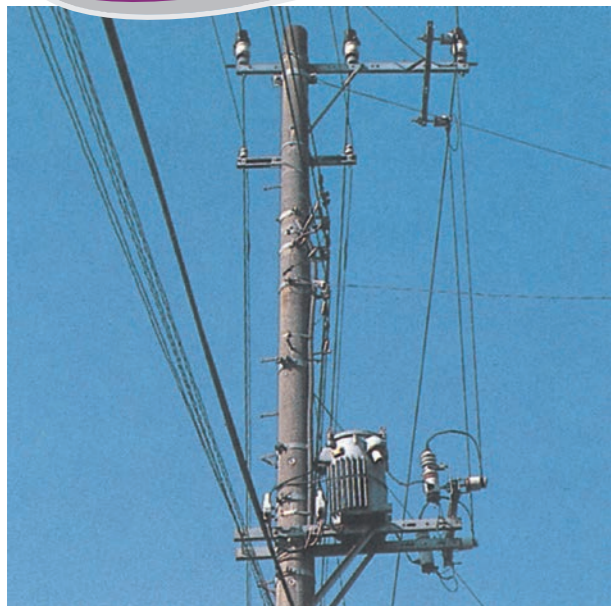
オンラインの停止に伴う混乱

患者生命への影響

地下街のパニック

交通機関の混乱

〈配電線〉



配電線を支える支持物は主にコンクリート柱が使われています。

電柱付近で作業をする場合は

◎接近を防止する目印として、電線に防護管を取り付ける必要があります。

- ・防護管取り付け後も、安全な離隔距離の確保をお願いします。
- ・充電線路接近作業となるため、東京電力パワーグリッドにて取り付けます。
- ・お申し込みから取り付けまで、1～2週間程度かかります。
- ・建設工事用防護管は、お客さまに御用意いただきます。

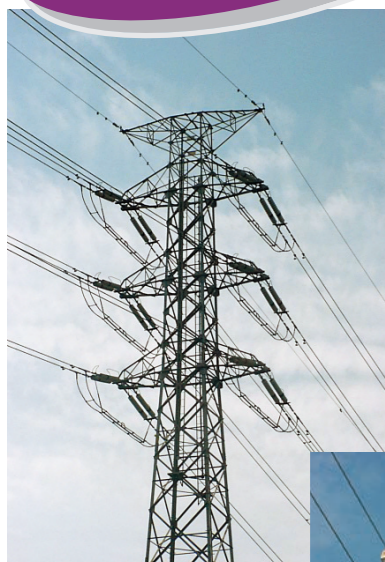
	電 圧	東京電力パワーグリッドがお願いしている安全な離隔距離
配電線	100 V・200 V	2 m
	6,600V	2 m
送電線	22,000V	3 m
	66,000V	4 m
	154,000V	5 m
	275,000V	7 m
	500,000V	11 m

送電線付近で作業する場合は

◎接近を防止する目安として、防護施設ならびに注意標識類を設置する必要があります。

- ・送電線は裸線のため、接近するだけで、感電する恐れがあります。
- ・送電線は電圧が高いため、防護管の取り付けができません。
- ・送電線への接近を防止するには、作業現場の上空に、目安となるネットやロープ等の防護施設を設置することが、最も有効な安全対策です。
- ・感電防止措置はお客さまで対策を講じることが、労働安全衛生規則第349条等で義務づけられています。

〈送電線〉



送電線は高い電圧の電気を流しておりますので、電線を支える支持物は、主に鉄塔が使われています。



防護管等の取り付け作業



ジャバラ管



建設工事用シート



建設工事用防護管

注意標識の設置例



防 護 ネット



防 護 ゲート



標 識 類

さらに



電線との間に安全な距離を保つために、専任の監視人を置いてください。

オペレーターや合図する方は、どうしても吊り荷の動きに気を取られがちになりますので、電線に対する注意がおろそかになりやすく、また、離隔距離の目測を誤ったりしやすいものです。



忘れてならないのが、アースの取り付けと転倒防止です。

アースは、万一の事故のときに電気を地面に逃がし電気ショックをやわらげるはたらきをします。なお、このアース線は、断面積が22mm²程度の太さをもった電線が必要です。また、労働安全衛生規則第173条及びクレーン等安全規則第69条～第70条の5によるものなど、転倒防止措置を施して下さい。

掘削される場合には

地面の下にも、電線(ケーブル)が埋設されている可能性があります。お近くの東京電力パワーグリッドへ連絡をお願いします。

もし災害が発生したら

① 万一災害が発生した場合は、

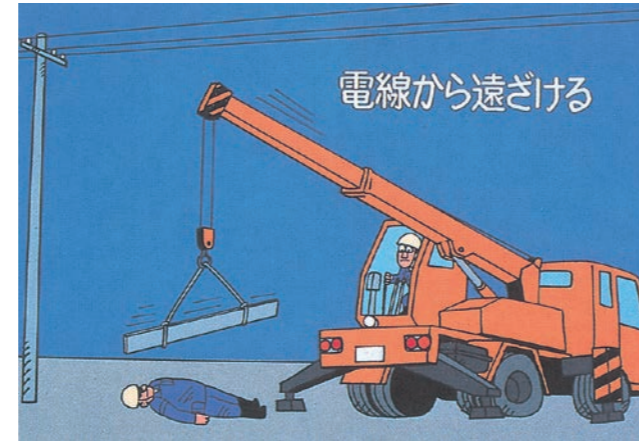


大声で災害発生をまわりの人たちに知らせて下さい。

吊り荷や車体などには絶対触ってはいけません。

運転席が設置されているクレーンなどでは、玉掛作業員や補助者の感電災害が拡大しないようにオペレーターはあわてずに、**接近・接触している部分を電線から遠ざけてください。**

一旦電気が止まっても再送電される場合があるため、**車上から降りる際は、人体に電気が流れるのを防ぐため車体に触れたまま、地面に足を付けないようにしてください。**



地上で操作するタイプの積載型トラッククレーンなどでは、オペレーターも感電する危険が高くなります。

クレーンなどには一切手を触れず、**ただちに警察署、消防署、東京電力パワーグリッドなど関係箇所に通報してください。**



② 負傷者がいた場合、

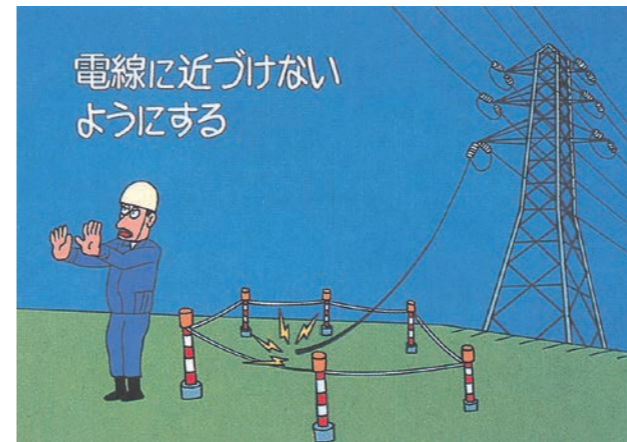
一刻も早く応急措置をとってください。

特に感電して気を失っている場合には、**機を失せず人工呼吸や心臓マッサージが必要です。**

③ 電線が切れた場合、

一旦停電したとしても、すぐに送電される場合があるので、電線にはいつも電気が流れているものと考えて近づかないようにして下さい。

ただちに東京電力パワーグリッドへ通報してください。



④ 幸いにして負傷者が出なかったとしても、

電線に接触したり、接近しすぎて『ファン』という電撃音が聞こえた場合は、停電が発生するとともに電線が損傷している場合があります。

かならず東京電力パワーグリッドへ通報してください。



あとには

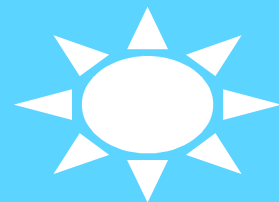
適切な安全措置をとらずに、人身災害や物損事故を起こしたとき…

- ・業務上過失致死傷や労働安全衛生法違反等により、懲役や罰金を科せられることがあります。
- ・送電配電設備に被害を与えた場合は、設備の復旧に要した費用やその被害に起因して発生した停電等による損害を賠償する責任を負います。

過去の感電事故例

作業中の感電事故で
 の業者書類送検
 労働基準監督署は二十五日、 町 で先月十八日に護岸工事の中の作業員三人が送電線に触れ感電、手足にやけどを負った事故で、請負会社の 町、 建設工業と同社の 代表(三七)を労働安全衛生法違反の疑いで 地検に書類送検した。
 調べによると同社は、護岸工事でコンクリート打ちの作業中、送電線近くで移動式クレーンを使って作業していたにもかかわらず、監視人を置かなかつたり、感電を防止するための安全措置を怠るなど、必要な安全義務を怠っていた。

■上記感電災害は、感電負傷者を出しただけでなく、13,400戸が停電しました。



建設用防護管窓口 電話番号変更のお知らせ



令和3年7月21日より電話番号が変わります。

【新電話番号】

03 - 6630 - 9577

【WEB申込】

24時間受付可能。ご利用をお待ちしております。

取付のお申込み

追加のお申込み

取外のお申込み



東電タウンプランニング 防護管

検索



※利用に伴う通信費(パケット代)はお客様のご負担となります。
通信費はご利用の通信会社、ご契約プランにより内容が異なりますので、
詳細につきましては契約会社へお問い合わせください。

お問合せ

東電タウンプランニング株式会社 TTPコールセンター

TEL : 03-6375-4652 ~7/20まで 受付時間:9:00~17:00 (土日除く)